

脱炭素へ課題解決 環境ビジョン・行動指針

日本道路グループ

日本道路グループは、グループ環境ビジョン「Nichido Blue&Green Vision2050」を策定した。SDGs（持続可能な開発目標）のゴールとされる2030年、脱炭素を目指す50年にそれぞれの課題、目標をクリアするため、自らの事業活動が地球環境に影響を及ぼすさまざまな課題

に対応し、解決に向けた取り組みを推進する。

環境ビジョンでは、道づくり・街づくりのプロフェッショナルとして、今後も持続可能な社会づくりに貢献する企業であり続けるため、地球温暖化、資源循環、生物多様性という喫緊の地球環境負荷低減に向けた50年までの長期的な目標を掲げた。策定に合わ

せて、「カーボンニュートラルの実現」「循環型社会の形成」「生物多様性への配慮」を3本柱とする行動指針も定めた。

行動指針の主な取り組みとして、「カーボンニュートラルの実現」では、現場で使用する重機・車両の電動化を積極的に進めるとともに、35年までに会社保有の全乗用車のゼロエミッションビークル化を図る。産官学の連携により、50年までに化石燃料を使用しないアスファルト合材製造技術の開発を目指す。オフィスを含む全事業活動で消費する電力を、40年までに100%再生可能エネルギーにする。

これらにより、全事業活動によるCO₂排出量を、13年度比で23年までに20%削減、30年までに50%削減、50年までに排出量の実質ゼロを目指す。

「循環型社会の形成」では、特定建設資材廃棄物（アスファルト塊・コンクリート塊・木くず）の再資源化率99%以上を維持し、35年までに100%の達成を目指す。

「生物多様性への配慮」では、グループの全事業活動で、生物多様性に与える影響を最小限に抑えるため、環境マネジメントシステムを活用し、積極的に生物多様性の保全に努めるとともに、評価と改善でより一層自然環境との持続可能な共生を図る。

環境ビジョンのもと、自らが考え、解決に向けて行動し、すべてのステークホルダーに対して環境価値を提供するとともに、持続可能な地球環境に貢献していく。



建設通信新聞

2021年09月01日 003面 01版 No. 05